

2020/9/6 東山ぐうぐう食堂

早津美帆

場所:市営東山住宅 中央集会所

企画:おすそわけ会ミニ夏まつり

参加者:大人、子どもあわせて約 128 人



ぷよぷよボールすくい

私は9月6日に東山ぐうぐう食堂に参加した。今回はおすそわけ会としてミニ夏祭りが開催された。ミニ夏祭りは、地域のお祭りなど中止が多いため、少しでも子ども達に楽しんでもらいたいという主催者側の思いがこめられている。ミニ夏祭りがメインのため、参加していただくことで、景品として食品を受け取ってもらうという形だ。なので、全員に配った物もあるが、人によって持ち帰る食品は異なる。お祭りには千本くじ、わなげ、ぷよぷよボールすくいの3つが準備された。私はぷよぷよボールすくいを小学生の子と一緒に担当した。ぷよぷよボールとは水につけると膨らむボールである。そのボールともに、ファンタやCCレモン、さんま缶など、水に濡れても大丈夫なものと一緒に浮かべ、おたまですくってもらい、すくったものを持ち帰ってもらう。大人の方の中には、参加しないという方もおり、そういう方には全員に配ってる紙パックのジュースを渡した。しかし、缶ジュースも入れていたため、参加してくれる大人の方も多かった。ぷよぷよボールは小さい子に人気で

あった。

次に千本くじは箱の中に糸が入っており、糸の先には景品そのものや、景品が書かれた紙がつながっており、選んだ糸の先につながっている景品がもらえる仕組みだ。担当の方の話では、高齢者など、大人の方も楽しんで参加してくださったようだ。景品にはフードバンク愛知さんからいただいた、冷凍のお肉も含まれており、その食材を狙う人が多かったようだ。



千本くじ

次にわなげは、9つのまどがあり、1～9の数字が書いてある。1人3回投げてもらい入った数字の数、+2個景品がもらえる。わなげの景品はスティックコーヒーやふりかけ、紅茶のパックなど、細々した物が多く用意されていたため、大きい数字のまどに入れられても、すぐになくなることはなかったようだ。大人の方で9に入れる人が多かったようだが、それでも最後まで景品は残っていた。

今回のミニ夏祭りとして準備された3つの企画で共通する良かった点は、子どもだけでなく、大人の方にも参加してもらえたということだ。事前の打ち合わせでは、大人の方は参加しないという人もいるかもしれないため、そういった人にはゲームに参加せずとも、景品を渡そうという話であったが、そういうケースは私の担当していたところでは少なかったように思う。思ったよりも参加してくれる人が多かったという印象だ。

チラシには、「16:00～18:00の開催であり、品も多くあるため、開催時間すぐに来るのではなく、時間をずらしてきてください」と記載はしていたものの、やはり、開始すぐは人が多く来たため、少し忙しい部分はあった。東山ぐうぐう食堂ではおすそわけ会の時に1人分を袋わ

けするという事はせず、エコバックを持参してもらい、段ボールなどの中から食材を取って
いってもらおうという流れで行っている。そのため、早く来ないといいものがなくなるというイ
メージがあり、今回早く来た人もいたのかも知れないと感じた。

ぷよぷよボールすくいと一緒に担当していた小学生の女の子2人は、運営スタッフのお子さ
んであり、いつも手伝いをしてきているのだが、今回は開催してから一時間くらいはずっと
忙しかったため、自由に動き回る時間がなく、大変そうであった。しかし、大変といいなが
ら、持ち場を離れることなく、一緒にやりきってくれたので、頼もしかった。後半少し落ち着
いてからは、わなげや千本くじに参加できたようでよかった。

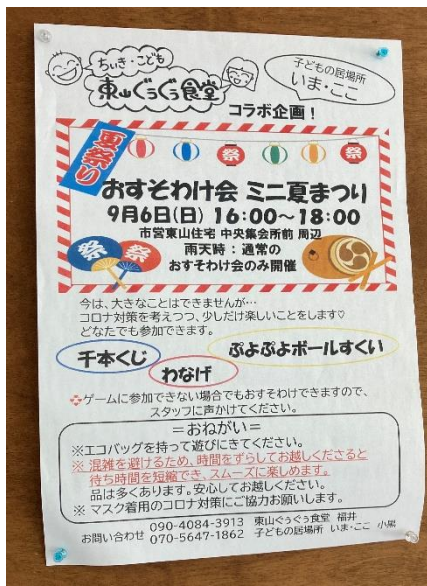
担当したぷよぷよボールすくいでの、私の反省点としては、すくうことに使うおたまのアル
コール除菌を人が変わるごとにすることになっていたが、何度かやり忘れることがあった点
である。受付で手のアルコール除菌はしてもらっているが、感染予防が重要とされているので、
その点は徹底すべき点であった。

また、ぷよぷよボールすくいは、一度に最大で4人しかできず、ぷよぷよボールは袋に入
れ、口を閉じる作業、飲み物などは濡れているため、水滴を拭く作業と工程が多く、待たせて
しまう時間が多かった点も反省である。作業の分担を行えば、効率よくできたのではないかと
考える。しかし、受付で夏祭りの企画に人が並びすぎないように止めたりしてもらっていたおか
げで、なんとか乗り切ることができた。

フードバンク愛知のアンケートは受付で、名前や連絡先などの情報を書いてもらう東山ぐう
ぐう食堂の用紙とともに配ってもらい、その場で書いてもらった。そのため回収率はよかった
が、高齢者の方は立って文字を書くという作業が大変であるため、あまり書いてもらうことは
できなかったようだ。また、子どもも早く遊びたいため、あまり記入してもらうことは出来な
かった。そのため、記入してくれた方はだいたい30~40代くらいの親御さんが多かったとのこ
とだ。

豊田市でコロナウイルス感染者が増えたことで、再開した子ども食堂もまた、お弁当配布と
いう形で、中で食べてもらうということが難しくなり、配布だけだとスタッフも多くはいらな
いため、参加できていなかったが、今回は参加でき、楽しそうに遊ぶ子ども達の姿を見ること
が出来てよかった。また、ミニ夏祭りは外で開催のため、雨の場合は通常のおすそわけ会だけ
となり、その場合は私も参加することができなかったため、晴れではなかったが、雨が降らず
にすみよかった。

次回の開催は9月21日で、この日は子ども(1~19歳)を対象に、100円でお弁当を限定
50食を販売する。この日は販売だけで、おすそわけかいもないため、スタッフの要請はない
かも知れないが、参加出来るときは引き続き参加していきたい。



←チラシ
カラーバージョン

子ども達を書いて→
くれた看板



←わかめスープ
賞味期限が8月までだったため、自由
に取っていってもらったようにした

2020/7/20 東山ぐうぐう食堂

早津美帆

場所：市営東山住宅 中央集会所

お弁当値段：200 円

7月20日に東山ぐうぐう食堂で久しぶりに子ども食堂が再開されるので参加してきた。今回は食中毒の危険や密を避けるために調理ではなくお弁当を「ほがらか」さんに注文し、それを配るという形で行った。しかしお弁当ではあるが、居場所作りをメインとする子ども食堂の再開であるため、室内で十分な距離を取り食事をとれるように準備をした。お弁当も受け取る人全員が室内で食べることを想定し数を50個限定で用意した。

また子ども食堂とともに「おすそわけ会」というフードパントリーも行われた。

私はフードパントリーで渡す小ぶりのジャガイモを10個ずつ袋詰めする作業や、お弁当に「7月20日中に食べてください」という紙を貼ること、荷物の運び出しなど手伝わせていただいた。初めての密を避けての子ども食堂だったため運営側も仕事が多く慌ただしい雰囲気であった。そしてそれに加え突然の雷雨でさらにあわただしくなった。お弁当配布は17時からで、早く来た人には並んでもらう予定であったが、雷雨で屋根のないところに並んでもらうわけにもいかず結果屋根の下が密になる事態が起きてしまった。そのままにしておくわけにもいかないので15分早いがお弁当の配布が始まった。受付では「名前」「住所」「電話番号」を記入していただいた紙を回収し、お弁当の個数分の料金を受け取り渡すという流れであった。紙は食中毒やコロナウイルス感染者が出たときのためのものである。またお弁当を渡した後には検温も準備していたのだが、お弁当を持って帰る方が多く、室内で食べる人は少数であった。またお弁当を家族分買って帰る人も多く、15分で完売してしまった。しかしなくなる寸前に来てくれた方が予定の17時ぴったりに来たにも関わらずお弁当を買えない事態となってしまう、別で注文していたスタッフの分を渡すことになった。

お弁当が完売してから外のパントリーの方を見に行くと虫かごがあり、その中に10匹くらいのクワガタがいた。地域の方が家の近くにいたのを捕まえて、子どもが喜ぶだろうと持ってきてくれたそうだ。案の定子ども達に人気で、持って帰る子が多かった。



袋詰めしたじゃがいも



パントリー 風景

18時頃に落ち着いてきたので、一緒に手伝いをしてくれた運営者側の方の子ども達と一緒に弁当を食べた。

19時頃からは反省会に参加させていただいた。いつもはごはんを食べながら反省会をされている中、子ども達と一緒に遊んでいるため参加したのは初めてであった。

いくつか反省点挙がったが、一番はやはりお弁当を持ち帰る人が多かったことだろう。居場所として再開したのに家で食べるのでは一緒である。また、食べて行ってくれた人も家族だけで食べていたり、お年寄りが一人で食べていたり、家と変わらない状態になってしまった。ボランティアとして参加した私達ももっとコミュニケーションを取りに行くべきだったと反省した。他には子ども食堂が始まる前に代表の福井さんがいつも来てくれている子に会い、子ども食堂やるから来てねと伝えたところ、お金がないから行けないと言われたそう。家でお母さんに聞いてみたら？と言うと仕事でお母さんもお父さんもいないからもらえないと言われたそう。密を避けるためにそれほど大きく告知していなかったためこれなかった子がいたことが反省点だとして挙げられた。いつも来て、一緒に遊んでいた子なので来ていない理由を聞き納得した。普段の子ども食堂ならお手伝いをしてくれたらただで良いということができていたが、お弁当だとそういうわけにも行かない。普段との違いを感じもどかしく思うことが多かった。次回への改善としては決定ではないが、案として、知らずに来た子でも食べていけるようにお米だけは炊いておいて、おにぎりを作れるようにするという案がでた。これだと小さいお子さんがいる家もお母さんだけ弁当を買い、おかずは分けながら子どもはおにぎりということもできる。またあくまで居場所をメインとしているためお弁当の販売は室内で食べて行かれる方だけに絞るという案もでた。必要としてくれている人はそれでも来てくれるだろうという考えだ。他にもお弁当と書かない、チラシに修正を加えるなど様々な案が出た。いろんな案がでたので、次回は室内が少し賑やかになるのではないかと思いき楽しみである。

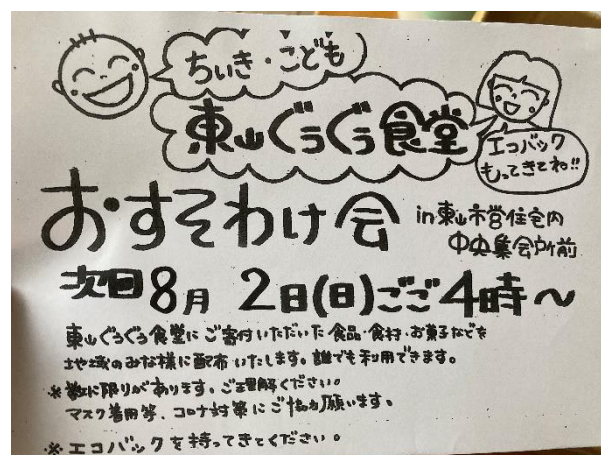


室内



次回のチラシ→

←お弁当



「東山子ども食堂」参加報告 おすそわけ会・子ども食堂

植野航史

開催日：7月20日（月）

場所：市営東山住宅 中央集会所

お弁当価格：200円/個

開始：午後17時～

豊田市にある「東山ぐうぐう食堂」では子ども食堂が再開された。豊田市が作成した子ども食堂ガイドラインに沿って活動が行われた。今回は、お弁当の販売提供と「おすそわけ会」というフードパントリーが同時に行われた。私は午後15時半ごろから参加させていただいた。

会場に着くと、早速準備からお手伝いを始めた。ジャガイモの袋詰めや室内の会場設営、荷物運びなど、その都度スタッフの方から指示をいただき準備を進めた。今回の子ども食堂は、室内でお弁当を購入し、検温をされた方が室内の広いお部屋で食事を取る事ができる。テーブルは一テーブルに2人で、ロの字にして最大12人座ることができるものを2セット用意した。テーブルセットごとの間隔を空け、席の使用後はスタッフがアルコール消毒を行う。お弁当は限定先着50食であったため、販売開始時間よりも早くから多くの方が集まっていた。受付で名前や住所、電話番号などを紙に書いてもらい、お待ちしていただいた。しかし当日はあいにくの大雨・雷で、屋根のある入り口で雨宿り兼開始待ちのお客さんでいっぱいになってしまった。

雨が止む気配もなく、多くのお客さんが集まってしまったため、15分ほど早くにスタートした。お名前や住所などを記入された方から順番にお弁当の販売やおすそわけを行った。私は会場内でお弁当を運ぶ係を担当し、お弁当を保管している場所と、販売している場所とお往復した。またお弁当の個数に合わせて箸やおしぼりなどを用意し、袋に入れてお渡しすることもお手伝いをした。お弁当はあっという間に予定の50個がなくなってしまう、15分ほどで完売した。開始時間の17時にちょうど来られたかたが購入できないというアクシデントも起こり、別で購入していたスタッフの分のお弁当を販売して対応をとった。お弁当の販売は購入された方から任意で室内の会場で食事をとっていただくというものだったが、持って帰られる方が多く、数人しか室内の会場で食事を取らなかった。私はお弁当の販売が終わると、外のおすそわけ会の方のお手伝いを行った。



おすそわけ会は、受付を済ませた方が、ジャガイモやお菓子、災害用食品、自由帳やマスク、冷凍食品や衣服など様々なものをおすそわけしていた。途中、地域の方が近所で捕まえた15匹ほどのクワガタムシが入った虫かごを持ってきてくださり、クワガタムシもおすそわけした。私はクワガタムシをお渡しする係を担当し、子どもたちが欲しいクワガタムシを紙コップに入れ、ラップをし、輪ゴムを止め、ラップに空気が入るように穴を開けてお渡しをした。やはりクワガタムシは人気で、お客さんが少なくなってきた時からお渡しを始めたも

の、すぐに無くなってしまった。

18時ごろになるとお客さんもまばらになり、落ち着いてきたため、お手伝いをしてくれたスタッフの方のお子さんとお弁当を食べた。お弁当は「ほがらか」で注文したものを販売し



提供しており、そのお弁当と同じものをいただいた。「ほがらか」は農薬や化学肥料、添加物を使われていない野菜や食品をできるだけ使ってお料理を作っているお店である。味もクオリティも高いお弁当だった。お弁当を食べ終わると片付けのお手伝いをした。片付けの途中、スタッフの方のお子さんと車のおもちゃで遊んだ。初めましての小学生？の男の子だったが元気いっぱい、少し遊んだだけで筋肉痛になってしまった。片付けでは、団地の棟の掲示板に貼っておいたぐうぐう食堂のチラシを次回のチラシに貼り替える作業を行った。片付けも終わるとスタッフの方と反省会を行った。



スタッフの方と円になり、振り返りを行った。多くの議題があり、とても有意義な反省会であった。お弁当に関しては、個数制限をしていないため、一人の方が何個も購入していかれる場面が多々あった事が指摘された。またお持ち帰りされては居場所としての力を発揮できないとの意見もあり、コミュニケーションや交流の機会が少なかったのが残念であった。テーブルと椅子しかない殺風景な会場では子どもたちが室内に入ってくることもなく、コロナ対策と居場所作りを同時に行うことの難しさを痛感した。私自身の反省として、初めての参加かつ大雨で慣れない会場で動く事が難しく、積極的に行動できなかったことを悔やんだ。会場内で食事を取られている方との交流や、お弁当数の把握、雨天時のコロナ対策など自分でもできることは他にもあったのではないかと反省している。一方で、お弁当の販売に関して、お弁当を持ち帰られる方が多かったことから次回の開催では、お弁当と明記せずに開催するのがどうだろうかという提案をさせていただいた。お弁当＝テイクアウトというイメージが強く、持ち帰り用に来られる方も多かったのではないかと考えた。「いいじゃん」と言ってくれる方もおり、自分の気づきが今後の活動のためになる事ができればいいと思う。ボランティアでもただ参加するのではなく、目的を持って参加し、自分なりに課題を見

つけ、提案する事ができればより参加している意味を感じられる。ぐうぐう食堂はとても和やかな雰囲気を受け入れてくださる場所であり、参加者も子どもたちから子育て家族、会社員の方から高齢者の方まで多くの世代の方が交流する事ができる多世代交流の場である。団地内の集会場で開催している特権でもある。今後も積極的に参加し、参加するからには力になりたいと思う。そのための知識や経験を他のゼミ活動、子ども食堂の参加を通して学び活かしたいと思う。

活動日：2020/7/20

開催地：豊田市東山住宅 中央集会所

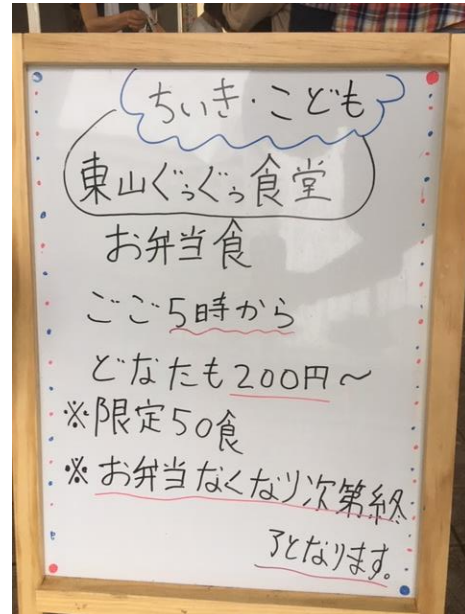
開催日時：17時～（ボランティアは15時から）

参加費：大人も子どもも200円（お弁当代）

活動内容：おすそわけ会＋お弁当食堂

配布した物

- ・ジャガイモ（1人10個）
- ・そうめん、ひやむぎ
- ・ごちポ自由帳
- ・五目ご飯のもと
- ・おかし
- ・みそ
- ・キットカットわさび味
- ・ごちポエプロン



子ども達を書いた看板



配布した物①
（自由帳、そうめん、じゃがいもなど）



配布した物②
（キットカット、お菓子など）

活動報告

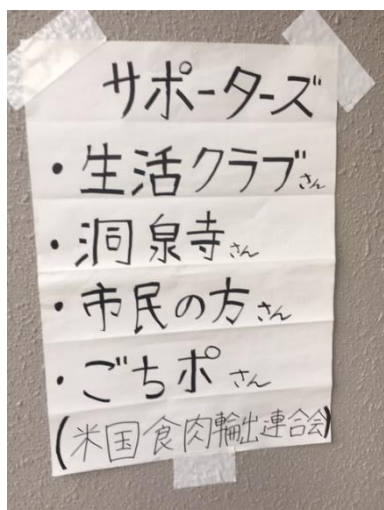
今回は、前回も行われていたおすそわけ会に加えお弁当食堂も行われた。お弁当食堂はいつもしている子ども食堂のお弁当版もあり、お弁当はその場で食べるか持ち運びをするか選択することが出来た。

お弁当は50個限定だったため、開始15分ほどで完売してしまった。しかしほとんどが持ち帰りを選択したため、実際に食堂で食べてくれた人は計12人と非常に少なかった。持ち帰った人も含めた全体的な年齢層は小学生からお年寄りと非常に幅広いものであったが、お年寄りが半分以上占めていた印象だ。

おすそわけ会は前回同様、集会所の玄関で行われたが開始20～30分前に突然の嵐が起こってしまったため、開始時間前ではあるが集会所の外で既に並んで待っていている人達も屋根のある玄関に集合。狭い玄関に大量の人が集まったため、3密が起こってしまった。3密を避けるため、開始時間15～20分前ではあるがおすそわけ会+お弁当食堂を再開した。するとすぐに完売してしまい、開始時間ぴったりに来てくれた方に渡す分がなくなってしまった。「時間通りに来てくれたのに申し訳ないから」とスタッフの方の分のお弁当を数名に渡していた。



お弁当を渡す大学生



寄付してくれた方の一覧



配布したクワガタ

お弁当はすぐに無くなったものの、おすそわけ会で配る物はまだまだ大量に余っていたため、「おすそわけ会は開催しているのでぜひ来て下さいー！」という子ども達のアナウンスを流すと、途切れ途切れではあるが多くの人が足を運んでくれた。

おすそわけ会の中で意外にも人気があったのは地域の方が持ってきてくれたクワガタで、たくさん子ども達が笑顔で家に持って帰った。そのクワガタは団地の階段にたくさんいたという。

開始から2時間ほど経ち、おすそわけ会は終了した。



配布されたお弁当



配布されたマスク

東山ぐうぐう食堂 報告書

岸田彩里

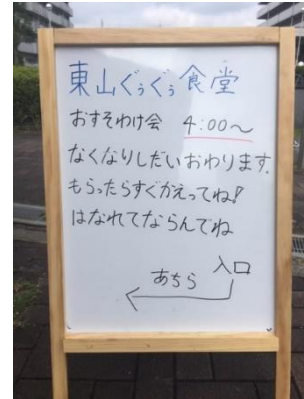
開催地：豊田市営東山住宅 中央集会所

開催日：2020/7/5

開催日時：16：00～17：00

参加費：無料（フードパントリー期間のみ）

活動内容：おすそわけ会（フードパントリー）



↑子ども達を書いた看板

配布したもの

- ・5kgのお米（一家族2個まで）→生活クラブ愛知からの寄付。5kgを100袋。
- ・おかし（1人1個）→市民からの寄付
- ・そば・うどん、缶詰、バジル、醤油、味噌、のり、佃煮、わかめ、肉、魚（この中から一家族2個まで）→市民からの寄付（給付金）
- ・自由帳→アメリカンポークからの寄付
- ・エプロン→アメリカンポークからの寄付



↑配布内容①（おかし、うどんなど）



↑配布内容②（米）

報告

7月5日、豊田市にあるぐうぐう食堂にボランティアとして参加した。ぐうぐう食堂はコロナの影響で当分の間子ども食堂は中止となっているものの、4月から2週間に一度おすそわけ会（フードパントリー）を行っているという。

今回の参加人数は約100人で、子どもから大人まで幅広い年齢層が来ている印象だった。

開始時刻の16時前には既に3~4組の家族やお年寄りの方が並んでいた。ある一人暮らしのお年寄りは、このおすそわけ会を毎回楽しみにしているそうで、「コロナでなかなか人と会えなくなりとても寂しいが、このように地域で活動をしてあげること自体がとても嬉しいし、ありがたい」と笑顔で語ってくれた。

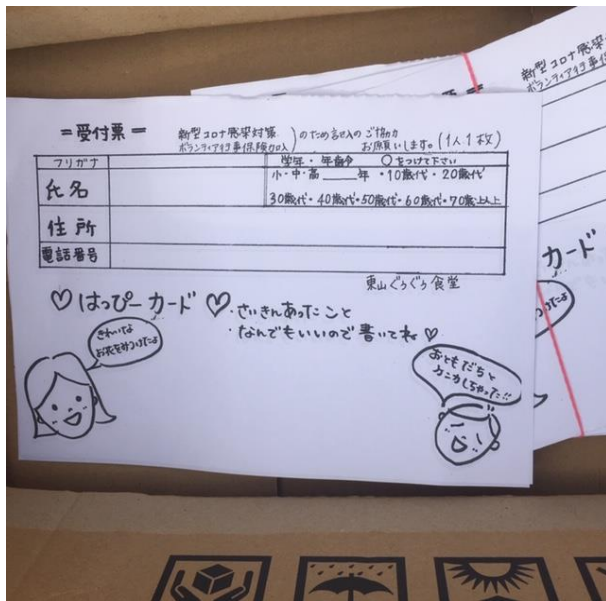


↑米を市民の子どもに配る大学生



↑好きなお菓子を選ぶ子ども達

16時になるとおすそわけ会が始まり、ぞくぞくと人が集まった。配布された中でお米が1番好評であったが、区内にはお年寄りも多いため、中京大の男子学生が「お米配達要員」としてお家まで運ぶお手伝いをしていた。そのお手伝いの中で、「一人暮らしでは話す相手がないから」とすごく楽しそうに談笑していた様子がほのぼのしており、素敵だった。



↑参加時に必要な受付票

に活用するもの、もう1つは最近あったことなどを書く欄を基に地域の子も達やお年寄りの現状の把握、そして今後の支援策などを考える材料にするという。

今回は約1時間と短い活動時間であったが、ぐう食堂を中心とした地域の繋がりを感じることができた。7月からはお弁当を配布する活動を行うそうなので、また参加できる機会があればぜひ参加したい。

受付には寄付金を求める貯金箱が置いてあり、多くの人が寄付をしている様子だった。中には「いつも助けてもらっているから・・・」「食品をいただけることがすごくありがたいから・・・」と1000円札を寄付する人が何人かいて、ぐう食堂の活動が地域の方々にとって非常に意味のあるものなんだと改めて感じた。

また受付をするには「はっぴーカード」と称した受付票の記入が必要とされていた。この受付票には2つの役割があり、1つは氏名や住所を書いてもらうことで万一コロナ感染者が出た際

↑次回開催のチラシ

2020/2/24 東山ぐうぐう食堂

早津美帆

場所：市営東山住宅 中央集会所

参加費：子ども 100 円 大人 300 円

メニュー：ご飯、コンソメスープ、もやしとじゃこのポン酢和え、鶏肉と里芋の煮物

私は2月24日に東山ぐうぐう食堂に参加した。いつもは15時から参加するが、今回は14時から参加させてもらった。子どもたちが来るまでの1時間くらい調理場の準備、お米をとぎ、里芋の皮むきなどを手伝った。今回の開催日は祝日のため、子どもたちも15時頃には8人ほど来ており、かくれんぼなどをして遊んでいた。1月の子ども食堂は成人式があったため、参加できなかったのですが、12月で話した子達も覚えていないのではないかとすこし不安があったが、顔を見て、「あ！」と気づいてくれる子や、「覚えている？」と聞くと、「覚えてるよ！」と返してくれた子が居てとてもうれしかった。調理場も人が集まり、一段落付いたところで私は小学1年生のこのところに行き一緒に折り紙をすることにした。1年生の子がハートを作りたいというので折り紙と一緒に入っていた折り方の本を見ながら、一緒にハートを作っていたのだが、意外と難しく苦戦していると、一緒に折り紙をしていた他の子が何も見ないでハートを作っていたので、何か作れるように次回の子ども食堂までに練習しようと思った。



いつも16時頃子ども達に野菜を切るなどの調理のお手伝いをしてもらう時間があるのですが、今回はコンソメスープの中に寄付された冷凍のパスタシートを入れることになっていたため、そのパスタシートをクッキーの型でくりぬく手伝いをしてくれた。調理場にいた方が子ども達に声をかけると遊びを中断して「手伝ってくる！」と嬉しそうに調理場に向かっていった。しかし、パスタシートをくりぬくのが意外と難しく、またかくれんぼが楽しかったのか途中から早く終わらせられるように大きい型を使ってくりぬいたり、工夫している姿がかわいらしかった。パスタシートのお手伝いが終わると私も子ども達と一緒にかくれんぼに参加した。そして17時前に町内放送を代表して2人の子が台本を上手に読んで町内に子ども食堂の開催を知らせ、その後数人の子は受付をしてくれた。受付にはアルコール消毒が置かれており、受付で名前を記入してもらう所には今回は強制ではないが、電話番号の記入もお願いしていた。これはコロナウイルスが問題となっているため、身元を確認するためだそうだ。

放送のあとしばらくして恒例となった近所に住むおじいさんのマジックショーが始まり、紙を破ったはずなのに破れていないマジックや、子どもが選んだサイコロの目を当てるマジックなど5つほど披露して下さり、今回も子どもたちは楽しそうに話しながらマジックを見ていた。マジックが終わった後は食事の準備をして、準備の出来た人から食べ始めた。私も子どもたちと一緒にタイミングで食事をさせていただいた。子どもたちには鶏肉と里芋の煮物が人気で同じ机に座っていた子も「里芋がとろとろしていておいしい」など話し

ていた。食事の後は、何人かの子と東山ぐうぐう食堂においてある、様々なゲームと一緒に遊び他にも食べ終わった子がでてくるとまたかくれんぼがおこなわれた。段ボールの中に隠れたり、器用に隙間に入り込んだりして、身体の小ささを感じた。19 時後にはだいたいの子が帰っていて、残っていた子達はボランティア出来ている方々のお子さんが多く、一緒に会場の机などを片付けてそのあと前々回にもした鬼ごっこなどをして過ごし、20:30 頃私達は先にあがらせていただき終了した。

いつもは 15 時から参加するため会場の設営の手伝いをいつもしていたが、今回は 14 時から参加したので、子ども食堂を始めるための調理場の準備なども手伝うことができ、次回から指示される前に自分が出来るが増えていることを嬉しく感じた。また、今回も子ども達と過ごす時間を多くいただいたため、いろんな子と話したり、遊んだりすることが出来て、充実した時間を過ごすことが出来た。帰りに当たり前にまた来月ね！と子ども達と約束出来たこともすごく嬉しいことである。

2019/12/16 東山ぐうぐう食堂

早津美帆

場所：市営東山住宅 中央集会所

参加費：子ども100円 大人300円

メニュー：さつまいもごはん、鶏野菜汁、ガーリックポテト、ゆでたまご、デザート（柿、りんご、ケーキ）

当日のスケジュール

15：00～ 会場準備、調理

17：00～ 食事

19：00～ 片付け

20：00 終了

私は12月16日に東山ぐうぐう食堂に参加した。私は東山ぐうぐう食堂に参加するのは2回目である。今回は平日開催ということで子供たちは15時半くらいから集まり始めた。

私たちは15時についたので、まず調理場でお米をとぐのと、里芋の皮をむく手伝いをそれぞれ行った。調理場には当日のメニューと、料理の流れ、子供たちが手伝えることという3枚の紙が貼られていた。これは、途中から来た人や、手があいた人が次に何をすべきかわかりやすくするための工夫だそうだ。調理の手伝いが終わったところで、次に会場設営のほうを手伝った。前回も会場設営はしたので、スムーズに準備することができた。会場設営をする頃には小学校低学年の子たちは何人か来ていて、会場設営を手伝ってくれた。設営が終わったころ子供たちは野菜を切る手伝いをしてくと調理場に向かった。私が小学生のころ家で料理の手伝いなどあまりしてこなかったので、子供たちが自分から手伝いに向かう姿に驚きを感じた。

子供が集まってきて、各々机の前にある畳やごぎのスペースで遊び始めたので、私たち学生や、大人の方も一緒になってトランプなどで遊んで過ごしていると、食事の時間になる少し前に前回とは違う近所に住む方がマジックを披露してくださった。子供たちはタネを見破ろうとじっとマジックを見ていて、驚いたり、仕掛けがわかったら叫んだり素直な反応がとてもかわいかった。マジック披露が終わったあと、食事の配膳をおこなった。前は私たちボランティアが机に運んでいたが、今回は子供たちが取りに来てくれたので、自分の分は自分で運んでもらうようにした。配膳の手伝いをしていると一緒にトランプをしていた子どもたちが一緒に食べよう！と言ってきて、待っているのを見た主婦の方が配膳を変わってくださったので、私と岸田は子供たちと先にいただくこととなった。

子供たちがご飯を食べ終わったころ、前回マジックを披露してくださった方が来られたので、2回目のマジックショーが始まった。1回目と違うマジックで子供たちは興味津々に見ていた。そのあとはまた各々トランプやUNOなどをして遊んで過ごし、19時ごろにはほとんどの子どもがかえって行き、ひと段落ついたので少し主婦の方などと話し、そのあとは代表者の小黑さんのお子さんや、残っていた数人の子たちとトランプをして遊び、そして

片付けをして私たちは今回も先に帰らせていただいた。

今回は前回よりも子供たちと一緒に遊ぶことができ私自身すごく楽しかった。また、遊ぼう！や食事の時にとなりに座って！など言ってくれる子がいることがとてもうれしかった。今まで行った子ども食堂は調理の手伝いや洗い物などをすることが多く、子どもと少し話す機会はあっても一緒に遊ぶことはそうそうなかった。しかし、東山ぐうぐう食堂は子供たちと一緒に遊ぶことができるので、ここは東山ぐうぐう食堂の特徴だと感じる。また、駐車場がないことで、来る子はだいたい歩いてこれる距離に住んでいるからか、学年関係なく遊んだり話している姿を見ると少しうらやましく感じた。

今回の私自身の反省点は最後子供たちとトランプをしているときあまり時間を気にしておらず、ゲームが長引き片付けの手伝いをするのが遅くなってしまったことだ。もう少し時間を気にすべきだったと思い、次は気を付けようと思う。

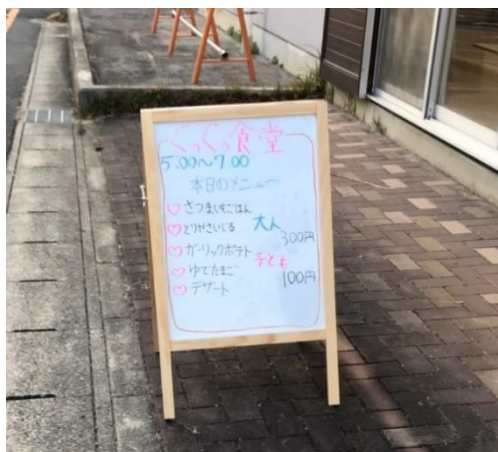
私たちが帰るときにもまだ何人か子供が残っていて、その子供たちが次も来る？と聞いてくれて、子どもたちも私たちがいて楽しかったと思ってくれていたのだとわかりうれしかった。次の開催は1/13で成人式で地元に戻っている日とかぶっているため参加できないが2月は参加したいと思っている。せっかく子どもたちと仲良くなれたので、これからも通い続けていきたい。



12/16のメニュー

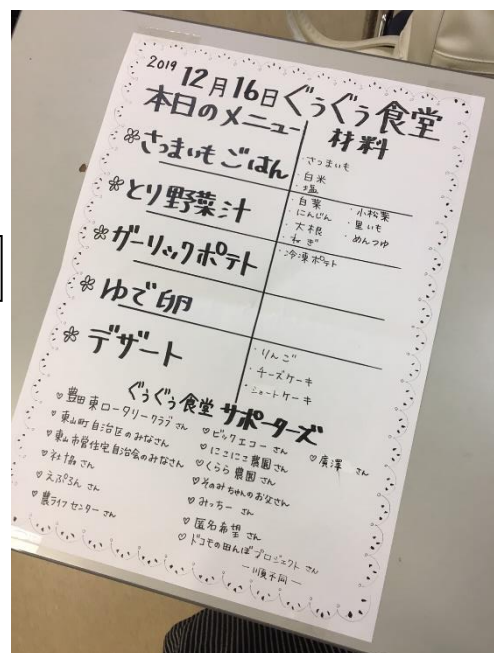


張り紙↑



←看板

受付に置いてあるメニュー表→



2019/11/4 東山ぐうぐう食堂

早津美帆

開催地：東山市営住宅 中央集会場

開催時間:17:00~19:00 (調理 15:00~)

11月4日のメニュー:ご飯、豚汁、野菜のナムル、ふかし芋

参加費：子ども 100円、大人 300円

流れ：調理・会場設営→地域の方のマジックショー→食事→自由時間→解散

私は11月4日に東山ぐうぐう食堂に参加してきた。この子ども食堂は令和元年10月14日に開設されたばかりで今回が2回目である。15時くらいに集会場に着いたが、祝日ということもあってか私たちが付いたときには既に7人ほど子供たちが来ていて、野菜を切るのを手伝っていた。場所や包丁にも限りがあるため、私たちは会場の設営を行った。会場設営では、後ろの方に長机を2つ向かい合わせ、大きな机を5つ作り、1つの机に6人座れるように椅子を配置した。また、組立式の畳やござを敷き、子ども達が遊べるスペースを前の方に設置した。設営が終わったあと私は調理の人手が足りない聞き、調理を手伝わせていただいた。調理では今回いくつかハプニングが起こっており、それは大きい炊飯器でお米を炊いていたのだが水の量の間違いかうまく炊けず、少し水分が多く炊けてしまったことや豚汁を作っていたが火力が弱く食事の17:00に間に合わなかったことなどがあった。これらのハプニングは子ども食堂を始めたばかりだからこそのものである。しかしこのハプニングについてや他の調理についても、主婦の方々が相談し、知恵や意見を出し合っているのを見て、主婦の方のすごさというのを間近で感じた。

また、この開催地では放送室があり町内放送をすることができるので、子どもたちが子ども食堂の宣伝を行うと、町内放送を聞いてか、ぞくぞくと地域の高齢者や子どもずれの家族が訪れた。ある程度子どもが集まってきたところで、近くに住んでいる男性がマジックを披露してくださり、子供たちは楽しそうにマジックを見ていた。前回の子ども食堂でも披露してくださったようで、今回もお願いしたそう。マジックが15分くらい披露された後に、食事が始まった。子どもたちはおいしいおいしいと言いながら食べていて、豚汁は人気でおかわりしている子が多かった。ご飯が食べ終わった後は子どもたちは前にあるホワイトボードでお絵描きしたり、畳やござの上で施設にあるオセロやランプ UNO など各々遊んでいた。また、新聞やぶらりんという地域誌の関係者の方など、色んな関係者の人が来ていたようだ。19:00頃にだいたい子どもたちが帰り始め。片付けを行い、私たちは先に帰らせていただいた。

まだ開催して2回目なのにも関わらず多くの人に来ていたので、驚きもありながら、地域の関わりが強いのだろうと感じた。また町内放送を使い宣伝している子ども食堂は今まで見たことがなかったので、子ども食堂の日を忘れていても気づけるし、放送を聞いて興味を持ってくれる人もいると思うので、集会所ならではだと思いが、すごく良い方法だと感じた。実際放送を聞き、食事は家で済ませてしまったが、気になったので来てみたと話している子連れのお母さんを見かけた。

東山ぐうぐう食堂

C318090 山手一輝

11/4、東山ぐうぐう食堂にお邪魔した。この食堂は集会場を使用していて、ホールのような場所が会場となっており、給湯室を調理場として使用していた。

私は会場側の手伝いを基本として行っていた。

最初に、ホールの倉庫のようなところから机を出して並べたり、畳や莫塵を引いて座れるスペースを用意した。設営が終わると今度は外に出す用の看板に、食堂の名前や今日のメニューなどを書いて外から来る人に分かりやすいよう準備をした。



開始時刻に近づくにつれて集会場から近辺の地域に向けて放送を流せるようで、子供達が担当してぐうぐう食堂の宣伝を行い、しばらくすると沢山の人が来だした。

ある程度子供達が集まったところで、手品を披露してくれる人がいて、マジックショーが開かれた。それが終わると夜ご飯を食べ始めるようになった。

本日のメニューはごはん、豚汁、野菜のナムル、ふかし芋で、特に豚汁は具材たっぷり、その具材に味がしっかり染み込んでいてとても美味しかった。



その日は地域の新聞記者のような人が来ていて、ご飯を完食した子供達の写真を撮影していた

ご飯が食べ終わるとみんなトランプやウノ、オセロや将棋などであそんでいた。

片付けはホール側の片付けのみの手伝いで良く、調理場側は他の人が担当してくれた。